

# 第9節 体 育

## 第1 本資料の活用について

### 1 作成の基本的な考え方

#### (1) 基本方針から

①児童の学習改善につながるものにしていくこと、②教師の指導改善につながるものにしていくこと、これらの方針を基に、体育科における効果的な学習評価の在り方を見直し、教育課程や学習指導の改善につなげるための参考資料とする。

#### (2) 埼玉県学校体育必携との関連

埼玉県教育委員会では「埼玉県学校体育必携」を毎年発行しており、「学習指導計画作成上の留意点」を示している。「単元の計画」の「指導と評価の計画」を一覧表形式とすることで、指導と評価の一体化を図ることができるようにしている。本資料を「埼玉県学校体育必携」と関連付けた内容にしていくことで、各学校での学習指導要領に基づく学習指導・評価が円滑に進むようにし、体育科の質の向上を図るようにする。

### 2 取り上げた内容

#### 第1 本資料の活用について

#### 第2 体育科における学習指導と評価

- 1 育成を目指す資質・能力の三つの柱について
- 2 「見方・考え方」を働かせる指導のポイントについて
- 3 体育科における「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善について
- 4 観点別学習状況の評価の観点について

#### 第3 単元の指導と評価の計画及び改善

- 1 単元計画の作成と評価及び改善の考え方
- 2 指導計画作成上の手順と留意点
- 3 指導と評価の計画（参考例）

#### 第4 本時の学習指導（学習指導案）と評価及び改善

- 1 本時の学習指導と評価及び改善の考え方
- 2 学習指導案の実際（参考例）

#### 第5 体育科における学習評価の評定への総括例

- 1 単元における観点ごとの評価の総括例
- 2 学期末における観点ごとの評価の総括例
- 3 学年末における観点ごとの評価の総括例

### 3 本資料の活用にあたって配慮すること

「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点で評価していくことを鑑み、各学校で評価規準を見直し、年間指導計画及び学習指導案を作成する際の資料として活用する。また、埼玉県小学校教育課程編成要領、学校体育必携及び学校健康教育必携を指導計画の作成及び学習指導を展開する上で併せて活用する。

### 4 学力・学習状況調査等の活用

「全国体力・運動能力、運動習慣等調査（平成30年度調査）」から、以下のような成果と課題が見られた。

運動やスポーツが好きな児童や授業が楽しいと感じている児童の割合は全国平均以下であるが、授業の中でたくさん体を動かしていると感じている児童、授業の始めにねらいが示されているという児童、授業の最後に内容を振り返る活動を行っていると感じた児童の割合は全国平均を上回っている。これを受け、本資料では、ねらいと振り返り、活動そのものをしっかりとつなぎ、児童がより成果を味わうことができる事例を掲載していく。

#### 指導計画作成の留意事項

編成要領（編P134）で示した「指導計画作成にあたっての留意すべき事項」との関連についても本資料で示していく。

- (1) 「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた児童への指導」の視点
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点
- (3) 「教科等横断的」な視点
- (4) 「社会に開かれた教育課程」の視点
- (5) 「道徳教育の充実」の視点
- (6) 「授業時数配当」の視点

## 第2 体育科における学習指導と評価

### 1 育成を目指す資質・能力の三つの柱について

#### (1) 目標

「小学校学習指導要領 第2章 各教科 第9節 体育」では、体育科の目標として「体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」という前段の後、三つの柱に沿って目標が示されている構成となっている。

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
教科の目標	その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。	運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。

#### (2) 各学年の目標及び内容

各学年の「1 目標」はそれぞれ、(1) 知識及び技能、(2) 思考力、判断力、表現力等、(3) 学びに向かう力、人間性等の三つの柱で整理されている。

下記は「A 体づくりの運動遊び」を例として示したが、「2 内容」は、まず前文があって、その後(1) 知識及び技能、(2) 思考力、判断力、表現力等、(3) 学びに向かう力、人間性等と、各内容についても育成を目指す三つの資質・能力に対応した構造になっている。

#### 〔第1学年及び第2学年〕

##### 1 目標

- (1) 各種の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、基本的な動きを身に付けるようにする。
- (2) 各種の運動遊びの行い方を工夫するとともに、考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 各種の運動遊びに進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、健康・安全に留意したりし、意欲的に運動をする態度を養う。

##### 2 内容

###### A 体づくりの運動遊び

体づくりの運動遊びについて、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、体を動かす心地よさを味わったり、基本的な動きを身に付けたりすること。
  - ア 体ほぐしの運動遊びでは、手軽な運動遊びを行い、心と体の変化に気付いたり、みんなで関わり合ったりすること。
  - イ 多様な動きをつくる運動遊びでは、体のバランスをとる動き、体を移動する動き、用具を操作する動き、力試しの動きをすること。
- (2) 体をほぐしたり多様な動きをつくったりする遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。
- (3) 運動遊びに進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動したり、場の安全に気を付けたりすること。

(以下 略)

### 2 「見方・考え方」を働かせる指導のポイントについて

- (1) 児童の発達の段階に応じて、体育の見方・考え方を育んでいくとともに、見方・考え方を働かせる場面を設定することが大切である。
- (2) 運動を楽しく行い、動きや技能が高まるとともに、体力の向上を実感できるような場面を意図的に設定することが大切である。
- (3) 運動についての児童相互の見合いや教え合い、新たな知識の獲得が、楽しさや喜びにつながるようにするとともに、「運動はうまくなければ楽しめない」などの偏見や負の見方・考え方を抱くことのないよう、留意することも大切である。

### 3 体育科における「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善について

#### (1) 主体的な学び

学習への興味や関心を喚起したり、学習の見通しをもてるようにしたりするとともに、学んだことができるようになったことを自覚し、新たな学びにつなげることが大切である。

#### (2) 対話的な学び

運動についての課題を解決する際、他者（書物等も含む）との対話を通して、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにすることが大切である。

#### (3) 深い学び

児童が学習の過程において、課題の解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深めるとともに、体育の見方・考え方を働かせることができるよう、指導を工夫することが大切である。

### 4 観点別学習状況の評価の観点について

#### (1) 主な改善点について

目標及び内容を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱で再整理した学習指導要領の下での指導と評価の一体化を推進する観点から、観点別学習状況の評価の観点についても、これらの資質・能力に関わる「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理して示した。

#### (2) 運動領域における「知識」の指導と評価について

##### ア 運動の行い方について「わかる」

動きや技能を身に付けたことに関連する知識のことであり、技能の習得との関連を図り、「わかる」「できる」の実現を目指す。運動の行い方が「わかっている」かを見取るために、従来通り、言葉かけをしたり、運動をやってみた感じを振り返らせたり、個別にかかわっていく。

##### イ 課題解決の仕方が「わかる」

どんな方法や手順で課題を解決するのが「わかる」については、「思考・判断・表現」で評価する。

##### ウ 「学びに向かう力、人間性等」の指導にかかわる「わかる」

公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全等に関する態度及び意欲的に運動をする態度の大切さが「わかる」ことであるが、知識として評価せずに、行動を評価する。

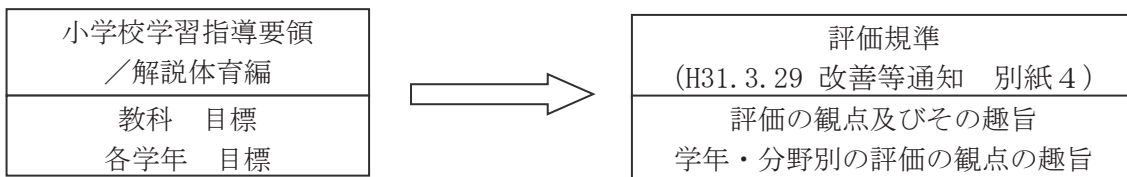
#### (3) 体育科における「主体的に学習に取り組む態度」について

学習指導要領において、運動領域については、「学びに向かう力、人間性等」と対応した目標と内容を（3）として示している。評価の観点である「主体的に学習に取り組む態度」については、従前の「関心・意欲・態度」が相当し、愛好的態度、公正・協力、責任・参画、共生、健康・安全に関する態度の評価規準を作成する。具体的には、進んで学習活動に取り組む、約束を守り公正に行動する、友達と協力して活動する、自分の役割を果たそうとする、友達の考えや取組を認める、安全に気を配る等の実現状況を評価する。（解 P10）

「学びに向かう力、人間性等」の内容には、粘り強い取組を行おうとしている側面や自らの学習を調整しようとする側面が含まれている。

保健領域については、「学びに向かう力、人間性等」と対応した内容がないため、各学年の目標を参考にして評価規準を作成、評価していく。

#### (4) 学習指導要領の目標及び内容と学習評価の関連



学習指導要領の目標を踏まえ、観点別学習状況の評価の対象とするものについて整理したものが「観点的趣旨」となる。「各教科等・各学年等の評価の観点的趣旨（平成31年3月29日）」には、次のとおり示されている。

【評価の観点及びその趣旨】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	各種の運動の行い方について理解しているとともに、基本的な動きや技能を身に付けている。また、身近な生活における健康・安全について実践的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	自己の運動の課題を見付け、その解決のための活動を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、身近な生活における健康に関する課題を見付け、その解決を目指して思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動に進んで取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自己の健康の保持増進についての学習に進んで取り組もうとしている。

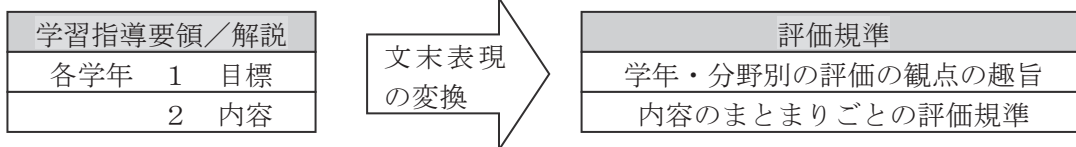
【学年・分野別の評価の観点の趣旨】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第2学年及び第1学年	各種の運動遊びの行い方について知っているとともに、基本的な動きを身に付けている。	各種の運動遊びの行い方を工夫しているとともに、考えたことを他者に伝えている。	各種の運動遊びの楽しさに触れることができるよう、各種の運動遊びに進んで取り組もうとしている。
第4学年及び第3学年	各種の運動の行い方について知っているとともに、基本的な動きや技能を身に付けている。また、健康で安全な生活や体の発育・発達について理解している。	自己の運動の課題を見付け、その解決のための活動を工夫しているとともに、考えたことを他者に伝えている。また、身近な生活における健康の課題を見付け、その解決のための方法を工夫しているとともに、考えたことを他者に伝えている。	各種の運動の楽しさや喜びに触れることができるよう、各種の運動に進んで取り組もうとしている。また、健康の大切さに気付き、自己の健康の保持増進についての学習に進んで取り組もうとしている。
第6学年及び第5学年	各種の運動の行い方について理解しているとともに、各種の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。また、心の健康やけがの防止、病気の予防について理解しているとともに、健康で安全な生活を営むための技能を身に付けている。	自己やグループの運動の課題を見付け、その解決のための活動を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。また、身近な健康に関する課題を見付け、その解決のための方法や活動を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	各種の運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、各種の運動に積極的に取り組もうとしている。また、健康・安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進や回復についての学習に進んで取り組もうとしている。

(5) 「内容のまとめりごとの評価規準」について

ア 「内容のまとめりごとの評価規準」とは

小学校学習指導要領に示す「第2 各学年の目標及び内容」の「2 内容」において、「内容のまとめり」ごとに育成を目指す資質・能力が示されている。このため、「2 内容」の記載はそのまま学習指導の目標となる。学習指導要領の目標に照らして観点別学習状況の評価を行うに当たり、児童が資質・能力を身に付けた状態を表すために、「2 内容」の記載事項の文末を「～すること」から「～している」と変換したもの等を、「内容のまとめりごとの評価規準」という。



イ 「内容のまとまり」とは

小学校学習指導要領に示す各教科等の「第2 各学年の目標及び内容 2 内容」の項目等をそのまとまりごとに細分化したり整理したりしたものである。

**【小学校体育科の内容のまとまり】**

〔第1学年及び第2学年〕	A 体づくりの運動遊び
	B 器械・器具を使っでの運動遊び
	C 走・跳の運動遊び
	D 水遊び
	E ゲーム
	F 表現リズム遊び
〔第3学年及び第4学年〕	A 体づくり運動
	B 器械運動
	C 走・跳の運動
	D 水泳運動
	E ゲーム
	F 表現運動
	G 保健 (1) 健康な生活
	G 保健 (2) 体の発育・発達
〔第5学年及び第6学年〕	A 体づくり運動
	B 器械運動
	C 陸上運動
	D 水泳運動
	E ボール運動
	F 表現運動
	G 保健 (1) 心の健康
	G 保健 (2) けがの防止
	G 保健 (3) 病気の予防

ウ 学習指導要領の「2 内容」及び「内容のまとめりごとの評価規準（例）」

「内容のまとめりごとの評価規準」は全教科共通で作成されることになっており、「内容のまとめり」と評価の観点との関係を構造的に理解する必要がある。学習指導や学習評価を行う際、学習指導要領の内容から逸脱しないように、「内容のまとめりの評価規準」を作成する。ここでは、第3学年及び第4学年の器械運動の「内容のまとめりごとの評価規準（例）」を示す。

学習指導要領 2 内容	器械運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	(1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、その技を身に付けること。 ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技をすること。 イ 鉄棒運動では、支持系の基本的な技をすること。 ウ 跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技をすること。	(2) 自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。	(3) 運動に進んで取り組み、決まりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすること。

文末表現の変換	○「～を知る」 →「～を知っている」 ○「～を身に付けること」 →「～を身に付けている」 ○「～すること」 →「～している」	○「～工夫する」 →「～工夫している」 ○「～伝える」 →「～伝えている」	○「～したり」 →「～しようとしていたり」 ○「安全に気を付けたりすること」 →「安全に気を付けていたりしている」
---------	---	--	--

内容のまとめりごとの評価規準例	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	(1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知っていると同時に、その技を身に付けている。 ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技をしている。 イ 鉄棒運動では、支持系の基本的な技をしている。 ウ 跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技をしている。	(2) 自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫していると同時に、考えたことを友達に伝えている。	(3) 運動に進んで取り組もうとしていたり、決まりを守り誰とでも仲よく運動をしようとしていたり、友達の考えを認めようとしていたり、場や器械・器具の <u>安全に気を付けていたりしている。</u>

〈健康・安全に関する態度〉に関することについては、「～しようとしている。」ではなく、「～している。」と表記する。

### 第3 単元の指導と評価の計画及び改善

#### 1 単元計画の作成と評価及び改善の考え方

(1) 単元の指導計画及び評価計画の作成に当たっては、以下のような点に留意する。

##### ア 体育科を中心としたカリキュラム・マネジメント

体育授業においては「意のままに動ける体づくり」を目指すことを前提とするとともに資質・能力の三つの柱をバランスよく確実に身に付けることができるよう、主体的・協働的な学びの過程を工夫し、充実していくことが重要である。児童が体育授業を通して学んだ「見方・考え方」を実生活や実社会で生かし、運動やスポーツの習慣化につなげられるように指導計画を工夫する。

- ・ 体育で行った運動が、休み時間でも行われるなど、日常的に運動が行われるような手立てを講じる。
- ・ 体力の向上を重視する観点から、体づくり運動の内容等について改善を図るとともに、体力向上についての取組と授業のつながりについて配慮する。
- ・ 運動領域と保健領域の一層の関連を図ることができるよう、時期や内容等について工夫、改善をする。
- ・ 他教科で培った資質・能力を体育科における課題の解決に活用する。

##### イ 学びや伸びを積み重ねる指導と評価計画の工夫

- ・ 単元初めは運動そのものの楽しさが味わえるよう、児童全員が単元初めの段階でもっている力で楽しめる易しい運動に取り組んだり、既習内容の確かめとなる運動や試しのゲームを行ったりする。
- ・ 単元を通して一人一人に「楽しい」を味わわせたり「伸び」を感じさせたりしながら授業で資質・能力を高めることができるよう工夫する。
- ・ 1時間の授業のみで完結するのではなく、目指すゴール像へ向けて、単元を通してつながりをもたせ、それを児童も感じることができるようなプロセスが必要となる。

明確なゴール像 資質・能力の三つの柱をバランスよく身に付けた具体的な児童の姿				
例	1	2～	X	
	<p><b>単元や運動との出会い</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 楽しさを味わう</li> <li>・ 今の力で行う</li> </ul> <p>オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 確かめの運動</li> <li>・ 試しのゲーム</li> <li>・ みんなができる運動など易しい運動</li> </ul>	<p><b>共通に学ばせること</b> (児童に教えること)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既習の技に取り組む</li> <li>・ 共通の課題に取り組む</li> <li>・ みんなでやってみる</li> <li>・ 個人やペア、グループのスキルアップに取り組む</li> </ul>	<p><b>自主的・主体的に学ぶこと</b> (児童に委ね、考えさせること)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発展技に取り組む</li> <li>・ 挑戦意欲をかき立てる課題に取り組む</li> <li>・ 選んだり、決めたりした活動に取り組む</li> <li>・ チームが勝つための学習、グループの発表に向けて取り組む</li> </ul>	<p><b>成果の確かめ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伸びた喜びを味わう</li> <li>・ 高めた力で行う</li> </ul> <p>・ 自己の伸びやチーム、グループの成果を確認し、振り返りを行う (例) 記録会 発表会 〇〇大会 等</p>
	<p>やって楽しい！ 授業前にもっている力</p>	<p>単元を通して一人一人に 「伸び」「楽しさ」を味わわせる</p>		<p>もっと楽しい！ 授業で高まった姿</p>
<p>単元において、1時間1時間のつながりを感じられる指導と評価の計画が大切</p>				

- (2) 単元の指導計画の評価結果を基に、指導計画の見直しを行い、授業改善を図る。
- ア 単元終了時や学期末、学年末に実践を踏まえた改善点等を指導計画に朱書きするなど、次年度の指導に確実につなげていく。併せて、使用した学習資料や学習カード、手作り教具、電子データ等の整理及び保存をする。
- イ 低・中・高学年それぞれ2学年間を一つのまとまりとして大きな単元として捉える。小学校第1学年から第4学年までを「各種の運動の基礎を培う時期」とし、小学校第5学年から中学校第2学年までを「多くの領域の学習を経験する時期」としたことを踏まえ、各学年で重点的に指導する内容を明らかにする。

## 2 指導計画作成上の手順と留意点

- (1) 単元の日標を決める。  
学習指導要領に示されている「2 内容」(学習指導上の日標となる)から【知識及び技能】、【思考力、判断力、表現力等】、【学びに向かう力、人間性等】の資質・能力について、児童をどのように変容させるか、目指す姿を箇条書きで示す。文末は「～することができるようにする」と表記する。
- (2) 指導計画を確認する。  
単元の日標の達成に向けて、各校で作成した指導計画を確認する。児童の実態を踏まえ、必要に応じて改善する。
- (3) 単元の評価規準を作成する。  
「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方等を踏まえ、学習指導要領解説体育編の各領域の内容にある「例示」を参考に、各学校で「単元の評価規準」を作成する。

小学校学習指導要領解説体育編の「例示」を参考に作成したもの

### 【単元の評価規準 設定例 (第3学年及び第4学年 B 器械運動 イ 鉄棒運動)】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①自分の力に合った鉄棒運動の行い方を言ったり、実際に動いたりしている。 ②支持系の基本的な技(補助逆上がり・前方かかえ込み回り)ができる。 ③できるようになった技を連続して行ったり、組み合わせて行ったりすることができる。	①自分の力に合った課題を見付け、その課題の解決のための活動を選んでいる。 ②課題の解決のために考えたことを友達に伝えている。	①鉄棒運動の基本的な技に進んで取り組もうとしている。 ②器械・器具の正しい使い方や試技をする前の待ち方、技を観察するときのきまりなどを守り、誰とでも仲よく励まし合おうとしている。 ③器械・器具の準備や片付けを、友達と一緒にしようとしている。 ④互いの動きを見合ったり補助をし合ったりして、技がうまくできたときの動き方や気付いたことなどを伝え合う際に、友達の考えを認めようとしている。 ⑤場の危険物を取り除いたり、器械・器具の使い方などの安全を確かめたりするとともに、試技の開始前の安全を確かめている。

- (4) 「指導と評価の計画」を作成する。
- ア 児童の発達の段階を踏まえるとともに、日標や内容が2学年ごとにまとめて示されていることを考慮して計画を立てるようにする。
- イ 各校で作成し、(2)で確認した「指導計画」の下に評価の計画を重ね合わせる。



【指導と評価の計画（7時間扱い） 本時は○印 3 / 7時】

時間	1	2	③	4	5	6	7
ねらい	※ 単元の明確なゴール像（内容：「何を学ぶか」、資質・能力「何を身に付けさせるか」）を明確にした上で、各時間のねらいを設定し、記入する。						
指導内容	※ 各時間のねらいに沿って重点的に指導することや単元のゴール像に向けて各時間で必要となる指導内容について記入する。						
学習過程	オリエンテーション	<b>例</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 集合、挨拶、健康観察</li> <li>2 前時の振り返り</li> <li>3 準備運動</li> <li>4 学習の場づくり、用具の準備</li> <li>5 感覚づくりの運動</li> <li>6 本時のねらいや学習内容等の確認</li> <li>7 練習</li> <li>8 練習の成果の確認（記録会、発表会、ゲーム等）</li> <li>9 自己評価、相互評価</li> <li>10 整理運動、片付け</li> <li>11 学習の振り返り</li> </ol>					
		※ 授業で教えるべきことを明記する。 ・技能だけでなく、他の指導内容についても明記する。 ・「共通に学ばせること」（児童に教えること）と「自主的・主体的に学ぶこと」（児童に委ね、考えさせること）を明確にする。					
評価計画	知・技		①	①		②	③
	思・判・表	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を、単元を通してバランスよく評価する。					
	態	②⑤		③	④		①
	方法	観察・カード	観察・カード	よりよいタイミングに、よりよい方法で確実に見取る。			
	場面		7,8,9				

※ 「評価計画」の「学習評価の観点」は、「知識・技能」を「知・技」、「思考・判断・表現」を「思・判・表」、「主体的に学習に取り組む態度」を「態」と略して記す。そこには、「単元の評価規準」の番号を記す。

※ その下段には「評価方法」を、その下の「評価場面」には、主にどの場面で評価するかを、上の学習過程の番号を記す。

※ ここでの評価は、1時間ごとの「ねらい」に正対した振り返りを行い、それを受けて次時につなげていく評価である。1時間の「学習評価の観点」は、原則一つとし、適切に評価できるようにする。また、努力を要する状況の児童に具体的な手立てを講じるとともに、必要に応じて、単元終了時まで指導と評価を繰り返すことが大切である。

体育科では学習指導要領改訂を見据え、平成28年度より指導案形式を刷新した。特に「指導と評価の計画」を一覧表形式とすることで、指導と評価の一体化を図ることとした。また、「指導と評価の計画」の形式は、各校で作成する年間指導計画（単元ごとの指導計画）にも転用しやすい形式となっており、指導案を作成して実践することが、次の年間計画に反映できるようになっている。

なお、埼玉県教育委員会では「埼玉県学校体育必携」を毎年発行しており、「学習指導計画作成上の留意点」を示している。これにより、県内各地で共有できる指導案作成ができるようになっている。

### 3 指導と評価の計画（参考例）

＜事例1＞ 一人一人が楽しくボールを投げることにチームで攻め方を考えることをねらった事例  
 第2学年「ねらえ、シュートゲーム」指導要領との関わり：E ゲーム ア ボールゲーム  
 （編 P140参照）

(1) 単元の見積

- ・シュートゲームの行い方を知るとともに、簡単なボール操作と簡単な攻めや守りの動きなどのボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすることができるようにする。  
〈知識及び技能〉
- ・シュートゲームの簡単な規則を工夫したり、攻め方を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。  
〈思考力、判断力、表現力等〉
- ・シュートゲームに進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。  
〈学びに向かう力、人間性等〉

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①シュートゲームの行い方を言ったり、実際に動いたりしている。 ②ボールを投げたり捕ったりすることができる。 ③ねらった所に投げるができる。 ④守りがいない所に動くことができる。	①得点がとれる攻め方を選んで いる。 ②友達のよい動き方を見つけて 伝えている。	①シュートゲームに進んで取り 組んでいる。 ②勝敗の結果を素直に受け入れ ようとしている。 ③安全に用具の準備や片付けを している。

(3) 指導と評価の計画（7時間扱い） 本時は○印 ○／7時  
 次ページ参照

(4) 評価の改善ポイント（例）

- ・ コートの大きさは、児童の実態に応じて変えていく。
- ・ 場の数は五つの場で行った。児童の人数によって変えることはよいが、あまり場の数を多くすると、児童の様子が見られないので注意していく。
- ・ ボールは片手で投げられるように素材や大きさを考慮する。
- ・ ボールに恐怖感を持っている児童には、柔らかいボールを使用していく。

(5) 家庭学習の活用

- ・ 家の人とキャッチボールをする。落とさずに連続で何回できるか挑戦することで、児童の意欲化にもつながる。
- ・ 新聞紙ボールを使って、的をねらって投げることで当てたときの達成感を味わわせることができる。

体  
育

(3) 指導と評価の計画(7時間扱い) 本時は○印 ○/7時

時間	1	2	3	4	5	6	7
ねらい	学習の進め方を知り、安全に楽しもう。	ボールを投げたり捕ったりできるようにしよう。	ねらった所へ投げよう。	点数がとれる攻め方を選ぼう。	守りがいないところを動こう。	点数がとれる攻め方を選ぼう。	攻め方を友達に伝え楽しくゲームをしよう。
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の進め方</li> <li>○チーム内での役割分担</li> </ul> <p>PI92 指導計画作成の留意事項(5)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ボールの投げ方と捕り方</li> <li>・手の位置・口伴奏</li> <li>・正面(キヤッチ)</li> <li>○感覚づくりの運動の行い方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ボールの投げ方</li> <li>・同時ボールを投げる攻め方</li> <li>・投げるふりをする攻め方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○攻め方</li> <li>・同時にボールを投げる攻め方</li> <li>・投げるふりをする攻め方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○三人が三角に広がること</li> </ul> <p>PI92 指導計画作成の留意事項(5)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○攻め方</li> <li>・作戦を示し、選ぶこと</li> </ul> <p>PI92 指導計画作成の留意事項(5)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○よい動きを見付け、友達に伝えること</li> <li>・守りがいない所に動くこと</li> <li>・動くふりや投げふり</li> <li>○勝敗を素直に受け入れること</li> </ul>
学習過程	<p>オリエンテーション</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>集合、整列、挨拶、健康観察をする。</li> <li>本時のねらいを確認する。</li> <li>学習の進め方を知る。</li> <li>単元の学習内容</li> <li>兄弟チーム</li> <li>用具と場</li> <li>準備運動をする。</li> <li>シュートゲームの行い方を知る。</li> <li>役割ごと位置</li> <li>行い方</li> <li>試しのシュートゲーム①をする。</li> <li>全体の課題の確認をする。</li> <li>学習カードの記入をする。</li> <li>整理運動、片付けをする。</li> <li>個人で振り返りをする。</li> <li>全体でまとめをする。</li> <li>次時の予告と挨拶をする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>集合、整列、挨拶、健康観察をする。</li> <li>本時のねらいを確認する。</li> <li>シュートゲーム①前半を行う。</li> <li>感覚づくりの運動をする。</li> <li>本時のねらいを確認する。</li> <li>シュートゲーム①前半を行う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>集合、整列、挨拶、健康観察をする。</li> <li>前時の振り返りをする。</li> <li>準備運動をする。</li> <li>感覚づくりの運動をする。</li> <li>本時のねらいを確認する。</li> <li>シュートゲームの仕方を確認する。</li> <li>シュートゲーム②前半を行う。</li> </ol> <p>(規則)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・攻めは三人で行う。</li> <li>・ボールはチームで一つ。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>作戦タイムを行う。</li> <li>【手たしパス作戦】</li> <li>【フェイント作戦】</li> <li>【パスパス作戦】</li> </ol> <p>シュートゲーム②後半を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>整理運動、片付けをする。</li> <li>個人で振り返りをする。</li> <li>全体でまとめをする。</li> <li>次時の予告と挨拶をする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>シュートゲーム②後半を行う。</li> <li>整理運動、片付けをする。</li> <li>個人で振り返りをする。</li> <li>全体の予告と挨拶をする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>シュートゲーム②後半を行う。</li> <li>整理運動、片付けをする。</li> <li>個人で振り返りをする。</li> <li>全体でまとめをする。</li> <li>次時の予告と挨拶をする。</li> </ol>	<p>コートやの大きさ工夫する楽しみもできる。</p> <p>《パスパス作戦》 パスを速く回して、守りがいない時にシュート。</p>
知・技 思・判・表 態	①	②	③	①	④	①	②
評価計画	③	①	①	①	①	①	②
方法	観察・カード	観察・カード	観察・カード	観察・カード	観察・カード	観察・カード	観察・カード
場面	6, 7, 8	7, 8, 10	7, 9, 11	8, 9, 11	8, 9, 10, 12	8, 9, 10, 12	8, 9, 10, 12

**<事例2> 意欲をもち続け、自分たちで動きを考えながら動きの質を高めることをねらった事例  
第4学年「体づくり運動」指導要領との関わり：A 体づくり運動 イ 多様な動きをつくる運動  
(編 P142参照)**

(1) 単元の日標

- ・多様な動きを作る運動の行い方を知るとともに、体のバランスをとる動き、体を移動する動き、用具を操作する動き、力試しの動きをし、それらを組み合わせることができるようにする。  
〈知識及び運動〉
- ・多様な動きを作る運動について自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。  
〈思考力、判断力、表現力等〉
- ・多様な動きをつくる運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。  
〈学びに向かう力、人間性等〉

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①力試しの運動と基本的な動きを組み合わせる運動の行い方を言ったり、書いたりしている。 ②力試しの運動ができる。 ③基本的な動きを組み合わせる運動ができる。	①用具の操作の仕方や行う人数など、より楽しく運動ができ、体の様々な動きを身に付けることができる行い方を選んでいる。 ②基本的な動きを身に付けるための運動のポイントや行い方について、自分の考えを友達に伝えている。	①多様な動きをつくる運動に進んで取り組みようとしている。 ②運動を行う時にきまりを守り、友達と仲よく励まし合って運動しようとしている。 ③友達の考えを認めたり、互いの気持ちを尊重し合ったりしようとしている。 ④活動する場を見て、使用する用具や活動する場の安全を確かめている。

(3) 指導と評価の計画（6時間扱い） 本時は○印 ○／6時  
次ページ参照

(4) 評価の改善のポイント（例）

- ・ 試しの活動を1時間目に行い、児童が活動の見通しをもてるようにする。
- ・ 運動の仕方の工夫の時間を2時間取り上げ、児童の活動時間と評価（観察）の時間を確保する。
- ・ 技能に関する評価時間は、単元後半にも計画する。
- ・ じゃんけんすごろくの場合で混雑している様子が見られたことから、来年度はじゃんけんすごろくの場合を左右対称になるようにもう一つ準備する。
- ・ ロープ引きで使用したロープの数がより多くあるとよいと感じたため、来年度はロープの数を増やすようにする。

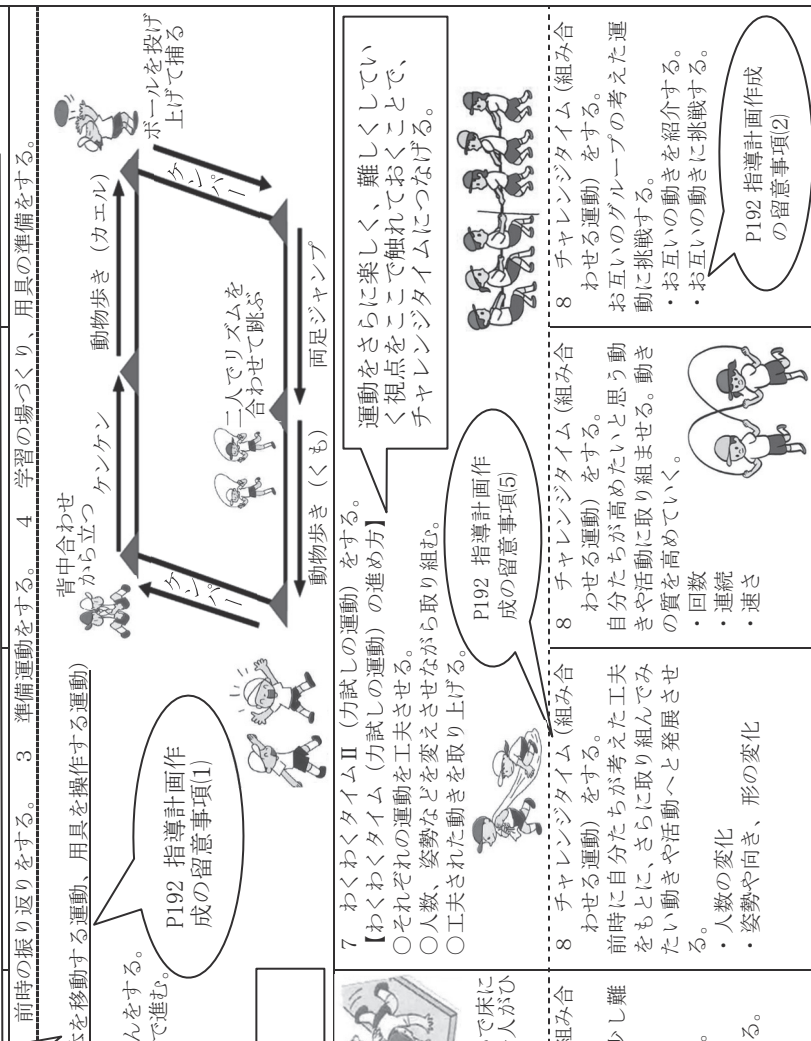
(5) 家庭学習の活用

- ・ なわとびカードを活用し、児童が主体的になわとびの練習に取り組めるようにする。
- ・ 親子でタオル引きやバランス崩しをする。親子のふれあいにもつなげるようにする。
- ・ お風呂に入りながらグーパー運動に取り組んだり、お風呂掃除などのお手伝いに取り組んだりすることで握力向上につなげる。

体  
育

(3) 指導と評価の計画 (6時間扱い) 本時は○印 ○/6時

時間	1	2	3	4	5	6
ねらい	多様な動きをつくる運動の行い方を知り、楽しく運動しよう。	それぞれの運動をスムーズに行うための運動のポイント友達に伝えよう。	力試しの運動と基本的な動きを組み合わせた運動の行い方を理解しよう。	それぞれの運動を教え合いながら運動を工夫しよう。	それぞれの運動のコツや工夫を生かしてそれぞれの動きを高めよう。	自分たちが考えた運動を紹介して、みんなで楽しく運動しよう。
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元のめあて</li> <li>学習の進め方や約束事</li> <li>準備・片付けの方法</li> <li>試しの活動</li> <li>学習カードの記入方法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動きのコツ</li> <li>話合いの仕方</li> <li>アドバイスの仕方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>工夫の仕方 (動きの変化)</li> <li>〇〇しながら△△する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>工夫の仕方 (人数の変化、姿勢や向き、形の変化)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動きの質の高め方 (回数、連続、速さ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習の学習内容</li> <li>友達へのアドバイスの仕方</li> <li>単元の振り返り</li> </ul>
学習過程	<p>〈オリエンテーション〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>集合、整列、挨拶、健康観察をする。</li> <li>準備運動をする。</li> <li>本時のねらいを確認する。</li> <li>学習の仕方や進め方の見直しをもつ。</li> <li>単元のめあて</li> <li>単元の学習内容</li> <li>学習の約束</li> <li>1時間の流れ</li> <li>学習カードの書き方</li> <li>グループ編成 等</li> <li>試しの活動をする。</li> <li>単元で扱う動きを楽しむながら行う。</li> <li>次時以降の意欲付けとする。</li> <li>課題を全体で確認する。</li> <li>じゃんけんすごろくの行い方を確認する。</li> <li>ルール</li> <li>進め方</li> <li>用具の準備</li> <li>片付けをする。</li> <li>学習の振り返りをする。</li> <li>整理運動をする。</li> <li>挨拶をする。</li> </ol>	<p>それぞれの運動をスムーズに行うための運動のポイント友達に伝えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>動きのコツ</li> <li>話合いの仕方</li> <li>アドバイスの仕方</li> </ul>	<p>力試しの運動と基本的な動きを組み合わせた運動の行い方を理解しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>工夫の仕方 (動きの変化)</li> <li>〇〇しながら△△する</li> </ul>	<p>それぞれの運動を教え合いながら運動を工夫しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>工夫の仕方 (人数の変化、姿勢や向き、形の変化)</li> </ul>	<p>それぞれの運動のコツや工夫を生かしてそれぞれの動きを高めよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>動きの質の高め方 (回数、連続、速さ)</li> </ul>	<p>自分たちが考えた運動を紹介して、みんなで楽しく運動しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既習の学習内容</li> <li>友達へのアドバイスの仕方</li> <li>単元の振り返り</li> </ul>
評価計画	知・技	②	①	①	②	③
	思・判・表	③	③	③	④	①
	態	②				
	方法	観察・カード	観察・カード	観察・カード	観察・カード	観察・カード
	場面	5, 6	7, 8	6, 7, 8	6, 7	6, 8



＜事例3＞ 自己の課題を見付け、グループで課題解決を目指すことをねらった事例  
 第6学年「水泳運動」  
 指導要領との関わり：D 水泳運動 ア クロール イ 平泳ぎ ウ 安全確保につながる運動  
 (編 P144参照)

- (1) 単元の日標
- ・水泳運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を知るとともに、続けて長く泳ぐクロールや平泳ぎ、続けて長く浮く背浮きや浮き沈みの技能を身に付けることができるようにする。  
 〈知識及び運動〉
  - ・水泳運動について、自己の能力に適した課題の解決の仕方や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。  
 〈思考力、判断力、表現力等〉
  - ・水泳運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動したり、仲間の考えや取組を認めたり、水泳運動の心得を守って安全に気を配ったりすることができるようにする。  
 〈学びに向かう力、人間性等〉

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①水泳運動の行い方について言ったり、書いたりしている。 ②クロールで、手や足の動きに合わせて続けて長く泳ぐことができる。 ③平泳ぎで、手や足の動きに合わせて続けて長く泳ぐことができる。 ④背浮きや浮き沈みを続けて長く浮くことができる。	①学習カードや掲示物を活用し、動きのポイントと自己や仲間の動きを照らし合わせて自己の課題を見付けている。 ②バディで陸上や水中から役割を決めて互いの動きを見合ったり、互いの練習の補助をし合ったりするを通して、見付けた動きのポイントや自己の仲間の課題に適した練習方法を伝えている。	①水泳運動が自己保全のために必要であることを生かし、水泳運動に積極的に取り組もうとしている。 ②水泳運動で使用する用具の準備や片付けなどで、分担された役割を果たそうとしている。 ③課題を見付けたり、解決方法を工夫したりする際に、仲間の考えや取組を認めようとしている。 ④プール内外の安全確認や自己や仲間の体の調子にも気を付ける等、水泳運動の心得を守って安全に気を配っている。

(3) 指導と評価の計画 (10時間扱い) 本時は○印 ○/10時  
 次ページ参照

- (4) 評価の改善のポイント (例)
- ・クロールのバタ足が弱い児童が多かったことから、次年度は、水慣れ時のバタ足練習の時間を今年度より長くとることにする。
  - ・クロールの呼吸時に、頭が上がってしまう児童が多かったことから、次年度は、バディの練習時に補助の仕方の指導を徹底する。
  - ・平泳ぎのキックがあおり足になってしまう児童が多かったことから、次年度は、平泳ぎのキックを習得する時間を1時間とることにする。
  - ・バディの練習時に見合うポイントを示しているが発言できない児童に対しては、次年度からは、言葉がけシートをつくり発言しやすいようにする。

- (5) 家庭学習の活用
- ・鏡の前でストロークの練習をする。
  - ・布団の上で、平泳ぎのキックの練習をする。

(3) 指導と評価の計画 (10 時間扱い) 本時は○印 ○/10 時

時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
ねらい	水泳運動のきまりを守って安全に水泳運動を楽しむ。	クロールの方を学習しよう。	自分の課題に合った練習をしよう。	バディのよいところを見付けよう。	クロールで続けて長く泳ごう。	平泳ぎの行い方を学習しよう。	平泳ぎの行い方を学習しよう。	自分の課題に合った練習をしよう。	バディのよいところを見付けよう。	平泳ぎで続けて長く泳ごう。	
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の進め方</li> <li>水慣れ</li> <li>け伸び、バタ足</li> <li>試しの泳ぎ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>バタ足</li> <li>手のかき</li> <li>手や足の動きに合わせた呼吸</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の課題の選び方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>バディ同士の見合い方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>バタ足</li> <li>手のかき</li> <li>手や足の動きに合わせた呼吸</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キック</li> <li>手のかき</li> </ul> <p>基本的な「知識及び技能」を身に付ける</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手や足の動きに合わせた呼吸</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の課題の選び方</li> <li>「思考力、判断力、表現力等」を高める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>バディ同士の見合い方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キック</li> <li>手のかき</li> <li>コンピネーション</li> </ul>	
学習過程	<ol style="list-style-type: none"> <li>集合、整列、挨拶 (オリエンテーション)</li> <li>本時のねらいを確認する。</li> <li>約束の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>着替え・移動</li> <li>バディ</li> <li>心得</li> </ul> </li> <li>準備運動をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>体の各部位の伸張</li> <li>回旋等</li> </ul> </li> <li>シャワーを浴びる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>顔、胸、背中、腰を洗う。</li> </ul> </li> <li>水に入る。</li> <li>水慣れをする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>水中鬼ごっこ</li> <li>バディじゃんけん</li> </ul> </li> <li>け伸び・バタ足をします。</li> <li>安全確保につながる運動をします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①背浮き</li> <li>②浮き沈み</li> </ul> </li> </ol> <p>上記の「知識」(技能ポイント)の学習機会を設ける。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>クロールの方を知る。(外部指導者)</li> <li>クロールで試みの泳ぎをする。</li> <li>課題別泳力別のグループに分ける。</li> <li>グループ内でバディを組む。</li> </ol> <p>学習成果の確かめを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>バディ同士で見合い、互いのよいところ等を見付ける。</li> </ul> <p>学習成果の確かめを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>バディ同士で見合い、互いのよいところ等を見付ける。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>クロールの方①を知る。(外部指導者)</li> <li>キックの仕方</li> <li>平泳ぎの行い方②を知る。</li> <li>手のかきの仕方</li> </ol> <p>6年生は、平泳ぎを重点的に行うため、基礎技能を習得する時間を2時間分確保する工夫をした。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>平泳ぎの行い方③を知る。</li> <li>手や足の動きに合わせた呼吸</li> <li>平泳ぎで試みの泳ぎをする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>課題別学習を行う。</li> <li>グループ内で学習成果の確かめを行う。</li> <li>バディ同士で見合い、互いのよいところ等を見付ける。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>安全確保につながる運動は、自己保全につながるため、毎時間運動する時間を確保した。</li> <li>学習成果の確かめを行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>50mまでとする。</li> </ul> </li> </ol>					
評価計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>知・技</li> <li>思・判・表</li> <li>態</li> <li>方法</li> <li>場面</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①</li> <li>②</li> <li>③</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①</li> <li>③</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①</li> <li>②</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①</li> <li>②</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①</li> <li>②</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①</li> <li>②</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①</li> <li>②</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①</li> <li>②</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①</li> <li>②</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①</li> <li>②</li> <li>③</li> </ol>

## 第4 本時の学習指導（学習指導案）と評価及び改善

### 1 本時の学習指導と評価及び改善の考え方

#### (1) 1 単位時間の指導計画と実践について

学習活動の一つ一つが、点ではなく線となってつながり、学びが積み上げられ深められていくことが重要である。

ねらい、活動、振り返り、それぞれのつながりを意識して、授業を展開していく。

【本時のねらい、活動の見通し等を示す】

- ・単元全体の位置付けやつながりを意識させるために前時の学習を振り返る。

【本時のねらいを達成するための活動に取り組ませる】

- ・たくさんの成果を味わわせるために教師が指導、助言、配慮することを具体的に示す。
- ・活動の場や時間を意図的に設ける。

ねらいに沿った指導と評価を繰り返す。

「努力を要すると判断される状況の児童への指導の手立て」を実行する。

規準に達している児童には、「十分満足できると判断される状況の児童の具体的な姿」を目指し、指導する。

これまで同様、運動量や運動機会を十分確保する。

【本時のねらいに正対した振り返り、まとめを行う】

- ・本時のねらいのできばえを問う。
- ・児童が自己の活動の振り返りをする。
- ・全体で振り返りをする。

#### (2) 本時の学習指導と評価の留意点

##### ア 本時のねらい

学習指導要領の内容や単元の目標に即して、本時で児童に身に付けさせたいことを明確にし、どんな活動ができればよいか、学習の進展状況を踏まえて具体的に示す。

※文末は「～できるようにする。」と表記する。

※文の後に付ける〈 〉は育成を目指す資質・能力の三つの柱から該当するものを表記する。

##### イ 準備

本時に使用する教具、用具、資料等を示す。

##### ウ 展開

導入から展開・整理へと児童の楽しさを追求する活動を中心に考える。その楽しさを「本時のねらいの達成」という確かなものにするために、教師が個人・グループやチーム・全体等に何を指導し、どのような点に留意していくかをより具体的に明確に示す。

段階	学習内容・活動	指導上の留意点（○指導 ◆評価規準）
導入 ○分	(例) 1 集合、挨拶、健康観察をする 2 前時の振り返りをする	※ 本時の学習を円滑に進めるための留意事項を具体的に示す。 ・健康上注意を要する児童の健康状況と指導上の留意事項 ・準備運動で特に注意を要する運動とその行い方、配慮する児童、学習手段等の特徴等

P192 指導計画作成の留意事項(2)



	<p>3 準備運動をする</p> <p>4 学習の場づくり、用具の準備をする</p>	
<p>展開 ○ 分</p>	<p>(例)</p> <p>5 感覚づくりの運動をする</p> <p>6 本時のねらいや学習内容等の確認をする</p> <p>7 練習をする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題やめあての解決に取り組む</li> </ul> <p>8 練習の成果の確認をする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記録会、発表会、ゲーム等</li> </ul> <p>9 自己評価、相互評価をする</p>	<div style="border: 1px solid black; background-color: #cccccc; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>※ 本時の学習を円滑に進めるための留意事項を具体的に示す。</p> <p>※ 一人一人の児童が、本時のねらいを達成することができるように、教師が指導、助言、配慮することを具体的に示す。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> <p>P192 指導計画作成の留意事項(2)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>◆単元の評価規準【観点】</p> <p>「単元の評価規準」で示したものをそのまま記す。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>指導と評価が一体となるように、</p> <p>「△努力を要すると判断される状況（C）の児童への手立て」</p> <p>「◎十分満足できると判断される状況（A）の児童の具体的な姿」</p> <p>を示し、評価を次の指導に生かす。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>P192 指導計画作成の留意事項(1)</p> </div>
<p>整理 ○ 分</p>	<p>(例)</p> <p>10 整理運動、片付けをする</p> <p>11 学習の振り返りをする</p>	<div style="border: 1px solid black; background-color: #cccccc; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>※ 本時の学習を振り返りに当たっての留意事項を具体的に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のねらいに正対した振り返りを行い、それを受けた評価の仕方、まとめ方についての要点</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>P192 指導計画作成の留意事項(2)</p> </div>

## 2 学習指導案の実例（参考例）

＜事例4＞ 感覚づくりの運動を大切にしながら単元で設定した中心技に取り組む事例  
第3学年「みんなで成功！補助逆上がり・かかえ込み回り」  
学習指導要領との関わり：B 器械運動 イ 鉄棒運動

### 第3学年2組 体育科 学習指導案（例）

#### 1 単元名 みんなで成功！補助逆上がり・かかえ込み回り（鉄棒運動）

#### 2 運動の特性

##### (1) 一般的特性

- 基本的な上がり技や支持回転技、下り技を身に付けたり、新しい技に挑戦したりするときに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。
- できるようになった技を繰り返したり、組み合わせたりして楽しむことができる運動である。
- より困難な条件の下でできるようになったり、より雄大で美しい動きができるようになったりする楽しさや喜びのある運動である。

##### (2) 児童からみた特性

鉄棒運動の楽しさや喜びを感じる要因	鉄棒運動を遠ざける要因
<ul style="list-style-type: none"><li>・できなかった技ができるようになったとき</li><li>・技を繰り返したり、組み合わせたりすることができるようになったとき</li><li>・友達とできた喜びを共感できたとき</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・技ができるようにならないとき</li><li>・落下への恐怖が先行してしまうとき</li><li>・手のひらや膝裏などに痛みを感じる時</li></ul>

#### 3 児童の実態

##### (1) 知識及び技能

鉄棒を使った運動遊びにおいて、こうもりやふとん干し、ぶたの丸焼き等、逆さになる遊びを意図的に取り入れてきたため、逆さ感覚が身に付いている児童が多い。鉄棒運動の学習は本単元が初めてであるため、中心技（補助逆上がり・前（後）方かかえ込み回り）の行い方の知識は備えていない。

##### (2) 思考力、判断力、表現力等

毎時間の体育授業において、学習資料やICTを活用し、自己の課題を見付け、活動を選択させているため、思考力、判断力が身に付いてきている。一方で、考えたことを友達に上手く表現できない児童もいる。

##### (3) 学びに向かう力、人間性等

体を動かすことが好きで、体育授業に意欲的に取り組む児童が多い。授業中は、約束を守り、友達と仲よく運動している。休み時間は、鉄棒を使って遊ぶ姿も見られ、運動の生活化が図れている。一方で、器械運動系への苦手意識から、鉄棒運動の授業に配慮が必要な児童もいる。

#### 4 教師の指導観

##### (1) 知識及び技能

中心技の行い方に関する知識を習得させるために、単元の前半で補助逆上がりと前方かかえ込み回りの一斉指導を行う。また、技の習得に必要な技能や感覚を身に付けさせるために、中心技に直接つながる運動（感覚づくりの運動）を毎時間行うようにする。

##### (2) 思考力、判断力、表現力等

単元の中盤に、各技能段階における運動の行い方と合格の基準を明確に示したステップカードを使用し、習得した知識及び技能に応じた技の段階を選択できるようにする。また、習得した知識及び技能を活用して自己や友達がどのようにすればできるようになるか伝え合いながら運動する時間を設定する。

##### (3) 学びに向かう力、人間性等

児童が進んで知識及び技能、思考力、判断力、表現力等の習得をめざすことができるように、教具

や教師による補助で痛みや恐怖を和らげるようにする。また、口伴奏や手伝い等、友達と関わる機会を意図的に設定し、粘り強く鉄棒運動の学習に取り組むことができるようにする。

「学びに向かう力、人間性等」の内容には、粘り強い取組を行おうとしている側面や自らの学習を調整しようとする側面が含まれている。(P194 参照)

## 5 単元目標

- (1) 鉄棒運動の行い方を知るとともに、補助逆上がりと前方かかえ込み回りを習得することができるようにする。 〈知識及び技能〉
- (2) 自己の能力に適した課題を見付け、活動を選択するとともに、技ができるようになるために考えたことを友達に表現することができるようにする。 〈思考力、判断力、表現力等〉
- (3) 鉄棒運動に進んで取り組み、きまりを守り、友達と考えを認め合って運動しようとしたり、場や器械・器具の安全を確かめたりすることができるようにする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

## 6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①自分の力に合った鉄棒運動の行い方を言ったり、書いたりしている。 ②支持系の基本的な技（補助逆上がり・前方かかえ込み回り）ができる。 ③できるようになった技を繰り返して行ったり、組み合わせて行ったりすることができる。	①自分の力に合った課題を見付け、その課題の解決のための活動を選んでいる。 ②課題の解決のために考えたことを友達に伝えている。	①鉄棒運動の基本的な技に進んで取り組もうとしている。 ②器械・器具の正しい使い方や試技をする前の待ち方、技を観察するときのきまりなどを守り、誰とでも仲よく励まし合おうとしている。 ③器械・器具の準備や片付けを、友達と一緒にしようとしている。 ④互いの動きを見合ったり補助をし合ったりして、技ができたときの動き方や気付いたことなどを伝え合う際に、友達の考えを認めようとしている。 ⑤場の危険物を取り除いたり、器械・器具の使い方などの安全を確かめたりするとともに、試技の開始前の安全を確かめている。

## 7 単元計画

### (1) 領域（器械運動）の取り上げ方

運動 / 学年	3年	4年	5年	6年
マット運動	7時間	7時間	6時間	5時間
鉄棒運動	7時間	7時間	6時間	5時間
跳び箱運動	8時間	8時間	6時間	6時間

### (2) 領域の内容と目指す動き

学年	教材	目指す動き
3年	鉄棒運動	補助逆上がり 前（後）方かかえ込み回り 前回り下り
4年	鉄棒運動	膝掛振り上がり 前（後）方片膝掛け回転 転向前下り 両膝掛け倒立下り
5年	鉄棒運動	逆上がり 前（後）方支持回転 片足踏み越し下り
6年	鉄棒運動	膝掛け上がり 前（後）方もも掛け回転 両膝掛け振動下り

(3) 指導と評価の計画 (7時間扱い) 本時は○印 2 / 7

		「思考力、判断力、表現力等」を高める			
時間	1	②	4	5	6
ねらい	学習の仕方やきまり事を知り、友達と協力して鉄棒運動をしよう。	逆上がりの行い方のポイントを見付けよう。	自分の力に合った逆上がりや、前(後)方かかえ込み回りを選択しよう。	友達と教え合いながら、自分の力に合った逆上がりや、前(後)方かかえ込み回りを選択しよう。	これまでの学習を生かして、発表会をしたり、組み合わせたりしよう。
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の進み方、きまり事(安全面を含む)、準備の仕方</li> <li>感覚づくりの運動の行い方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助具の使い方</li> <li>逆上がりの行い方(踏み切り、振り上げ脚の上げ方等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ステップカードの使い方</li> <li>自己の能力に適した技の段階の選択の仕方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身に付けた知識及び技能の伝え合いについて</li> <li>考えたことの認め合いについて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技の繰り返しや組み合わせの行い方</li> <li>友達と認め合う態度</li> <li>技の繰り返しや組み合わせの行い方</li> </ul>
学習過程	<p>&lt;オリエンテーション&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>単元のねらいを知り、学習の見通しをもつ。</li> <li>本時のねらいを確認する。</li> <li>ペア・グループ分けを行う。</li> <li>場の準備の行い方を知る。</li> <li>感覚づくりの運動の意義・行い方を知る。</li> <li>逆上がり・前方かかえ込み回りの実態調査をする。</li> <li>片付けをする。</li> <li>個人で振り返りを行う。</li> <li>全体でまとめをする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>感覚づくりの運動をする。</li> <li>本時のねらいを確認する。</li> <li>補助具の使い方を知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>逆上がり補助器(仮)の使い方を確認する。</li> <li>帯は両腕を背面で縛って使用することを知る。</li> </ul> </li> <li>個に応じた場で運動しながら、逆上がりの行い方のポイントを考える。</li> <li>全体で、逆上がりの行い方のポイントを共有する。</li> <li>個に応じた場で、再度逆上がりを行う。</li> <li>片付けをする。</li> <li>個人で振り返りをする。</li> <li>全体でまとめをする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>感覚づくりの運動をする。</li> <li>本時のねらいを確認する。</li> <li>ステップカードの使い方を知る。</li> <li>自己の能力に適した技の段階の選択の仕方</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>身に付けた知識及び技能の伝え合いについて</li> <li>考えたことの認め合いについて</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習を生かして、発表会をしたり、組み合わせたりしよう。</li> <li>友達と認め合う態度</li> <li>技の繰り返しや組み合わせの行い方</li> </ol>
評価計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>知・技</li> <li>思考力</li> <li>表現力</li> <li>⑤</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①</li> <li>③</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>②</li> <li>④</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>②</li> </ol>
場面	観察・カード 8, 9	観察・カード 7, 8, 9	観察・カード 6, 7	観察・カード 6, 7	観察・カード 7, 8, 9

**3 準備運動をする。**

- ①反りくぐり ②つばめ→相田干しからの起き上がり (水飲みつばめ) →かかえ込み振動 (だるまプランコ) →前回り下り ③特久懸垂 (ダンゴ虫) 10秒 ④足抜き・尻抜き回り

5 本時のねらいを確認する。

6 ペアで技の段階を選択して、逆上がりを行う。

段階
1 足抜き回り・尻抜き回りができる
2 帯で腕を固定し、補助器を使って逆上がりができる
3 帯で腕を固定し、補助してもらって逆上がりができる
4(合格) 帯で腕を固定し、逆上がりができる
5 逆上がりができる

※レベル6以降は、連続させたり、振り上げ足を揃えたりすることに挑戦する。

7 ペア・グループで技の段階を選択して、前(後)方かかえ込み回りを行う。

段階
1 鉄棒をかかえ込み、回転軸を固定することができる
2 友達に手伝ってもらい、大きなかかえ込み振動ができる
3 友達や先生に手伝ってもらい、前方かかえ込み回りができる
4(合格) 大きなかかえ込み振動から、前方かかえ込み回りができる
5 前方かかえ込み回りが連続してできる

※レベル6以降は、回転方向や回転回数、回転軸の固定の仕方を変化させることに挑戦する。

- 片付けをする。
- 個人で振り返りをする。
- 全体でまとめをする。

○次時の予告をする。

**2 前時の振り直しをする。**

- 本時のねらいを確認する。
- これまで学習してきたことの振り返りをする。
  - 上がり技 補助逆上がり
  - 回る技 前(後)方かかえ込み回り
  - 下り技 前回り下り
- ペアで技の繰り返しや組み合わせの練習をする。
- 小集団で発表会をする。
  - 技能段階に応じた技を繰り返し返したり組み合わせたりする。
- 再度ペアで技の繰り返しや組み合わせの練習をする。
- 片付けをする。
- 個人で振り返りをする。
- 全体でまとめをする。

○整理運動、挨拶をする。

8 本時の学習と指導 (2 / 7時)

P207 参照

(1) ねらい




自分の力に合った鉄棒運動の行い方を言ったり、書いたりすることができるようにする。

〈知識及び技能〉

(2) 準備

掲示資料・鉄棒用マット・逆上がり補助器・柔道の帯・学習カード

(3) 展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点 (○指導 ◆評価規準)
導入 10分	1 集合、挨拶、健康観察をする。 2 前時の振り返りをする。 3 準備運動をする。 4 場の準備・安全確認を行う。 5 感覚つくりの運動を行う。 ①反りくぐり ②つばめ→布団干しからの起き上がり(水飲みつばめ)→かかえ込み振動(だるまブランコ)→前回り下り ③持久懸垂(ダンゴ虫)10秒 ④足抜き・尻抜き回り	○服装を整えさせ、顔色や様子を確認し、気持ちをこめた挨拶ができるようにする。 ○準備運動は各部位を意識させながら、正確にできるようにする。 ○感覚つくりの運動はゆっくりと、正確にできるようにする。 ○友達同士で口伴奏をし合い、ポイントを押さえながら行うことができるようにする。 
展開 30分	6 本時のねらいを確認する。 逆上がりの行い方のポイントを見付けよう。 P192 指導計画作成の留意事項1) 帯と逆上がり補助器を併用してもできない場合は、同じ場の友達に腰や脚を支える補助の仕方を指導する。	○前時の実態調査を振り返らせ、児童の言葉をつなげてねらいを設定する。課題解決への見通しをもたせることで、必要感を抱くことができるようにする。 ○逆上がりができない児童を集め、補助器、帯の使い方を確認させ、全員が逆上がりできる条件を整える。 ○帯は背面で両腕を縛らせ、肘を伸ばさないための補助具として活用できるようにする。 P192 指導計画作成の留意事項2) 課題解決に向け、他者との対話を通して、自己の思考を広げたり深めたりし、対話的な学びの実現を目指す。
	7 課題解決に向かい、逆上がりを行う。 ・逆上がり補助器 (板)、帯の使い方を知る。  感性、思いやりなど、観点別学習状況の評価にはなじまない部分も個人内評価を通じて見取っていく。 P192 指導計画作成の留意事項3) 総合的な学習の時間の「情報活用能力」と関連付けて、教科等横断的な視点で学習活動を行う。	○本時のねらいに迫る言葉かけを積極的に行う。友達に逆上がりの行い方を言ったり、実際に動いてみたりしている児童を積極的に称賛し、全体へ広める。 ○友達への温かい言葉かけや、励ましの言葉かけを積極的に評価し、個別に児童へ伝えていく。 ○必要があるときに限り、タブレットを使用して、自分の動きを確認することができるようにする。 ○(逆上がりをする)、(逆上がりを見る)、(ポイントを伝え)支える、(逆上がりの行い方のポイントを知る)など、鉄棒運動と多様な関わり方ができるようにする。 ◆自分の力に合った鉄棒運動の行い方を言ったり、書いたりしている。 (観察・学習カード)【知識・技能】
	8 全体で、逆上がりの行い方のポイントを共有する。 P192 指導計画作成の留意事項2) 全体のまとめから、自分の考えを広げたり、深めたりすることで、深い学びの実現を目指す。	○△努力を要すると判断される状況 (C) の児童への指導の手立て ・ポイント (踏み切り位置、振り上げ脚の上げ方等) をしぼるよう支援する。 ◎十分満足できると判断される状況 (A) の児童の具体的な姿 ・ポイントを踏まえ、より自分に合った逆上がりの行い方を言ったり、書いたりしている (脚を揃えた逆上がりの行い方のポイントや逆上がりを繰り返す行い方のポイント等)。
	9 共有したことを生かして、再度逆上がりを行う。 10 片付けをする。	○考え (運動して実感したこと) を発表させ、逆上がりの行い方のポイントを児童の言葉を使ってまとめていくようにする。 ○踏み切りの位置や、振り上げ脚の上げ方等における逆上がりの行い方のポイントを全体で共有できるようにする。 ○まとめたことは本当に正しいのか、再度逆上がりを行わせ、確認できるようにする。 ○自分たちの言葉でまとめたことを生かし、逆上がりの成功体験をさせることで、知識及び技能が習得できたこと(体力の向上)を実感できるようにする。 ○片付けは安全に留意させ、友達と協力してできるようにする。教師も一緒に行き、安全に協力して行っている児童を称賛し全体に広める。
整理 5分	11 個人で振り返りをする。 12 全体でまとめをする。 ねらいと正対させる まとめ 逆上がりの行い方のポイントは、正確な位置で踏み切り、振り上げ脚を勢いよく上げて行うとよい。  13 次時の予告、整理運動、挨拶をする。 次時、児童の発言から課題を設定させるために行う。	○本時のねらいに沿って振り返りができるようにする。 ○数名の児童に振り返りを発表してもらう。 ○児童の言葉をつなげながら、課題に対するまとめを行う。 ○振り上げ脚を勢いよく上げ、脚の付け根を鉄棒に最短でもっていき腕力がない児童でも勢いで逆上がりが行えることを押さえる。 ○両脚を揃えて逆上がりを行っていたり、繰り返したりしている児童を紹介し、技能上位群の意欲付けを図る。 ○次時に行う技 (前方かかえ込み回り) について触れ、意欲付けを図る。 ○よく動かしした箇所を中心に、丁寧にほぐすよう助言する。 ○気持ちをこめた挨拶ができるようにする。

## 第5 体育科における学習評価の評定への総括例

### 1 単元における観点ごとの評価の総括例

1 単位時間や1時間の学習評価をもとに、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点ごとに単元の観点別学習状況の評価を出す。その際、1 単位時間や1時間ごとの学習評価はねらいに準拠した適切な評価を行うことが基本となるが、児童のよい点や可能性、進捗状況を把握し、評価することも大切となる。体育科においては、児童の運動場面以外の観察や学習カードの記載内容等を評価につなげることが重要である。また、教師が学習指導要領に基づいて作成した評価規準に児童がどこまで近付けているか状況を常に把握し、指導と評価と支援を繰り返していくことが重要である。

P192 指導計画作成の留意事項③  
指導に当たっては、特別活動の[学級活動]「②ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成」と関連を図り、基本的な知識の習得とともに、よりよく判断し、行動する力を育む。

<単元名 第3学年「健康な生活」(4時間扱い)>

<単元における児童の観点別評価>

時間(回)	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	1	3	4	2	3		1	4	
評価方法	ワークシート	ワークシート	ワークシート	観察・ワークシート	観察(話し合いの様子・発表など)	総括	観察(話し合いの様子・発表など)	観察・ワークシート	総括
児童名				総括					総括
〇〇〇〇	B	C	B	B	B	B	C	B	B
△△△△	A	A	B	A	B	A	A	B	B
◇◇◇◇	A	A	A	A	A	A	A	A	A

児童：〇〇〇〇さん  
 <知識・技能> B  
 <思考・判断・表現> B  
 <主体的に学習に取り組む態度> B

児童：△△△△さん  
 <知識・技能> A  
 <思考・判断・表現> B  
 <主体的に学習に取り組む態度> B

児童：◇◇◇◇さん  
 <知識・技能> A  
 <思考・判断・表現> A  
 <主体的に学習に取り組む態度> A

「知識・技能」については、これまでの「知識・理解」では毎時間の評価を行っていたものをねらいに基づいて精選し評価することとした。

「AB」「BC」「AABB」など、同数の場合や「ABC」のように三つの記号が混在する場合の総括の仕方をあらかじめ各学校で決めておく必要がある。

### 2 学期末における観点ごとの評価の総括例

学期末には、単元ごとの観点別の評価を総括し、三つの観点別学習状況の評価を出す。

<第3学年3学期の例>

単元名	知識・技能						思考・判断・表現					主体的に学習に取り組む態度						
	体づくり運動	小型ハードル走	健康な生活	跳び箱運動	ハンドボール	学期末の評価	体づくり運動	小型ハードル走	健康な生活	跳び箱運動	ハンドボール	学期末の評価	体づくり運動	小型ハードル走	健康な生活	跳び箱運動	ハンドボール	学期末の評価
〇〇〇〇	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B
△△△△	B	C	A	C	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B
◇◇◇◇	A	A	A	A	A	A	B	A	A	A	B	A	A	A	A	A	A	A

編 P141 参照 (A 小学校第3学年の評価例)

### 3 学年末における観点ごとの評価の総括例

学年末(指導要録)の評定への総括は、あらかじめ各学校で決めておいた基準で行う。評定は3学期分の観点別の評価を並べて総括したり(例:Aが2こ、Bが13こ)、3学期分の各観点別の総括結果を基にしたり(例:BBB→2)できる。その際、目標に準拠した評価となっているかを確認する。また、児童一人一人のよい点や可能性、進捗の状況などを授業中の教師の言葉かけやワークシートへの教師の記述などを通して評価する。